

下
ポルポ

性転換オフェス

～性転換して、枕営業でお客様にご奉仕!ご奉仕!～



第1章



営業成績というものが怖いのです。成績が悪い社員は、『枕営業』要員に降格だからです。

男性社員も例外ではありません。成績が悪いと、強制『性転換』です。性転換すれば、枕営業もできまからね。

今日はそんな営業成績が悪い男性社員をビルの前に連れ出し、クールビューティーな女部長からの『お尻叩きの刑』の後、性転換させる日なのです。

女性になって、枕営業をする。覚悟はいいですね？

「はい。じゃあ、次はチーフのN君ね。貴方はチーフだから、特に罪が重いわよ。キミのチームの新人二人は貴方のせいで性転換したのよ。だからお尻叩きの回数も当然、倍…いえ、3倍位にしないと。150回のお尻叩きよ。もっとお尻上げなさい」



「このお尻叩きが終わったら、貴方は男を辞めるの。女になるのよ。そして、枕営業が仕事になる。男としての最後の仕事が、路上でお尻を叩かれるってどんな気分？ ほらっ！お尻を下げないっ！叩きづらいでしょ？ もっと突き上げなさい」

ちなみに横で吊るされている二人の女性は、つい先程まで男性でした。女部長のお尻叩きを受け終わり、性転換手術を受けてきたのです。オチ○チンは綺麗に取れて、おっぱいは膨らんで、身体も顔も丸みが出ましたね。



何故吊るしてあるかは簡単です。せっかく女性になれたのですから、大勢の人にマ○コを見てもらって自分が男でなくなったことを、強く自覚してもらうためです。

今日一日はこのままマ○コ丸出し、真っ赤なお尻丸出しで吊るされたままでしょう。そうやって男は女になるのです。

「営業先で聞かれたら、ちゃんと答えるのよ。」
「男は辞めました。」
「これからは私のマ○コも使って接待させていただきます」って。それが貴方の仕事。」
ほら、お客様が写メに撮ってくださってるのよ。
お尻叩かれながらでも御礼くらい言えるでしょ？」



「女になったからには、枕営業も出来るのだから目標値も上げれるわよね。性転換までして、枕営業してまで成績が上がらなかったら、救いようがないわよ。わかってるわよね？」
ああ、心配しなくていいわ。可愛いお化粧の仕方ぐらい教えてあげるから」

「これは業務命令だから、
まじめに聞きなさい。
明日までに女物の下着、スーツを
用意しなさい。
もちろん出勤前からちゃんと
女物を身に付けて来るのよ。
分かってると思うけど、
可愛い下着、可愛いスーツじゃ
なかったらその場でお尻叩きよ。
毎日お尻叩きは…嫌でしょう？」



「間違っても男物の服なんか
着て来ないでよ。
かばんも靴も全部、女物。
髪型も可愛い女の子セットで、
出勤しなさい。
それから、今日帰ったら
男物の服は全部処分しなさい。
処分した証拠写メを撮って、
会社のサーバーにアップ
しておくこと。いいわね？」

「何、泣いてるのよ。
女の子になれるのが嬉しいの？
だったら嬉しそうに微笑みなさい。
それと…
あなた達全員、お尻叩きで
勃起しちゃうってどういうこと？
これはあなた達を
反省させるためにしてるのよ？
男ってホント、どうしようもない
マゾばかりね」



「まあ、いいわ。
マゾな女の子はお客様にも
可愛がってもらえるものね。
昨日までは汚いM男。
今日からは可愛いM女。
たくさんの人に
可愛くご奉仕しなさい。
たくさん契約を取ってきなさい。
いいわね？」

クスクスという道行く他人の嘲笑を心の隅々まで満たされて、彼らは女の子になるのです。彼らの、人生最後の勃起は、

『成績が悪過ぎて、人前で女部長にお尻を叩かれた時』になるのです。それもまた良い思い出ですね(笑)。



人間不思議なもので、マゾっぽい人ほどこういう状況に陥りやすいのです。おマ○コ丸見えの状態で吊るされるなんて、M女以外は耐えられないですからね。

ああ、そうそう。性転換直前は、射精禁止ですよ。仕事中に射精なんて、社会人として最低ですからね。

第2章



突然ですが、女物の服の選び方、お分かりになりますか？

千差万別、種類も豊富、組み合わせに至っては無限大。文字通り男は門外漢の世界。

それを明日までに身に着けて来いと言われても、無難にこなすのはまず無理でしょう。

今回枕営業要員に堕ちた3人も上手く出来なかつたようです。

しかし、そういう人間は衣服をひん剥かれて、トイレ掃除をさせらるのも、無理からぬところではないでしょうか。

「アレだけ可愛い下着に、可愛いスーツを着て来いと言ったのに、何なの？ 貴方が着て来たあの芋臭いスーツ。さっき燃えるゴミに出しておいたわよ。命令を聞けなかったペナルティは、女子トイレの舐め掃除。床の隅から隅まで舐めて綺麗にしなさい」



「もう『女子』なんだから今日からは貴方も女子トイレでするのよ。だから、掃除も当然。特に貴方は枕営業要員なんだから舐め掃除しか無いでしょ？ 疑問の余地があつて？ :宜しい。じゃあ、さっさと舌を出して舐めなさい」

「タイルの目に沿って舌を
這わせなさい。
女の子なんだから、
そういうところは丁寧にするのよ。
何？舐めるのが怖いのか？
汚い？
：しょうが無いわね。
ケツこっち向けなさい。
アナルがこっち向くように、よ」



「痛いでしょう？当然だわ。
アナルにヒールを直挿したものの。
私、今日このヒールで入社したの。
このトイレも入ったし、
道も普通に歩いたわ。
つまり、貴方のアナルに刺さって
いるのはとっつっても汚い
ヒールだったこと。
アナルは中まで汚れたわ。
舌ぐらい汚れてもへっちゃらよね。
舐めなさい」

「そうよ。
そうやって素直に言うことを聞けばいいのよ。
M女は素直が一番。
何でも素直に言うことを聞くのが一番なのよ。
だって貴方はもう男じゃない。
M女なんだから。
何でも言うとおりにシなさい」



「それと空気を読むのも
忘れないで頂戴。
私が今何を考えていると思う？
『もしもこれ以上駄々をこねたら、
ヒールをグリグリ押し込もうと
思っていたんだけど…残念。
でもせっかくだから、
…ぶっこんじゃお♡』
そういうわけだから、ヒールを
押し込まれても文句言わずに、
舐め続けなさい」



トイレ掃除などの罰を受けることだけが仕事ではありません。営業である以上、新商品に詳しくならないといけません。商品は実際に使って、体で覚えるのが詳しくなる最良の方法。

彼女たちの売る商品は『ヘニスバンド』ですのもちろんペンバンを啜えないわけにはいきませぬね。

ついでにおフェラの指導も女部長さんからあるようですよ。人生最初のフェラが美しい方へのご奉仕で、良かったですね。

ダウンロードありがとうございます！
残り本編でお楽しみ下さい。